

はじめての実験レポート作成手順

作成者 理工学研究科 M1

作成日 2018 年 7 月

1. はじめに

大学生になると、実験や実習の講義でレポートを作成する機会が増えてきます。実験のレポートは普通のレポートと書き方が少し違いますので、戸惑うことがあると思います。今回は、はじめての実験レポートで書き方が分からない！という人向けに簡単にレポート作成手順の概略を以下にまとめます。

2. 実験レポートの書き方概略

レポート作成手順	
Step.1 表紙の作成	実験タイトル, 学籍番号, 学科, 年次, 名前を記入します。忘れがちですが, 実験日 , 提出日 もしっかりと記入しましょう。
Step.2 実験の目的	実験には必ず 目的 が存在します。何が目的でその実験が行われているのかを 明確 にして, 書きましょう。
Step.3 実験の理論・原理と概要	その実験がどのような 原理・理論 に則って行われているのかを記入します。例えば, どのような原理でその実験のデータが得られるかや, 実験に関わる理論式等の説明を書けば良いです。
Step.4 実験方法	実験を行った方法や器具, 試料等を記入します。 1.使用した 実験器具・試料・方法 2. 実験手順 * 実験器具・試料・方法はなるべく詳しく記入しましょう。 * 手順は 過去形 にして記入してください。
Step.5 結果	実験で得られたデータを記載します。グラフや表を作成すると見やすい結果を示せます。 * データに関しては, 必ず 単位 の記入と グラフの縦軸, 横軸が何を示しているのかを明確 にすること。

Step.6 考察

得られた結果から、**妥当性**や**その結果に至った原因**をまとめます。レポートを書く中で一番評価される項目ですので、しっかりと書きましょう。書き方の例としては、理論値と実験値がズレてしまった原因や得られた結果の傾向が何を示しているのかといった様にまとめると良いです。

Step.7 参考文献

実験の手法や結果の整理などで**使用した書籍**や**論文**を必ず記入しましょう。例を下に挙げます。

論文：著者（発行年）「論文タイトル」, 『掲載誌』, 巻号, pp.00-00.

書籍：著者（発行年）『タイトル』出版社.

3. 終わりに

上記の手順通りに書き進めることで、レポートは完成しますが、もっと詳しい書き方やまとめかたを知りたい方は下記の参考文献を参照してください。また、レポートのフォーマットは必ずしも上記通りとは限らないので、指定のフォーマットがある場合はそちらの手順に従って作成してください。

レポート作成後はしっかりと読み直してから、指定の場所に提出しましょう。書き方などで分からないことがあれば、気軽に学修相談窓口にお越しください！

4. 参考文献

- 1) 井下千以子（2014）『思考を鍛えるレポート・論文作成法[第2版]』慶応義塾大学出版会.
- 2) 吉田健正（2004）『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方[第2版]』ナカニシヤ出版.
- 3) 河野哲也（2002）『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会.